

方 面	0 8 J X R	(1面)
1 師 団	新隊員後期教育開始	(2面)
12 旅 団	機動戦闘車射撃訓練	(3面)
1 施設団	總監初度視察	(4面)
東 混 団	新隊員教育修了	(5面)

總監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
總監要望事項「一隅を照らせ」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面總監部広報室
住 所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

08JXR

南海トラフへの備え

対処能力を向上

東部方面隊は7月21日から24日までの間、令和8年度自衛隊統合防災演習(08JXR)に参加し、

陸上自衛隊東部方面隊として、南海トラフ地震発生時の対処に必要となる自衛隊の統合運用の対処能力の向上を図った。この演習は、南海トラフ地震発生時の対処に必要となる自衛隊の統合運用の対処能力の向上を図った。この演習は、南海トラフ地震発生時の対処に必要となる自衛隊の統合運用の対処能力の向上を図った。



海上輸送群と連携した島しょ部への展開



静岡県庁に設置した現地調整所



總監部における状況報告



協定に基づく企業等との連携

ず関係省庁、地方公共団体等と連携して実施したものである。

總監から善行褒賞
即応予備自衛官らが人命救助

第48普通科連隊は7月17日、相馬原駐屯地において、即応予備自衛官10人と常備自衛官6人に対し、東部方面總監からの善行褒賞状の授与式を行った。

5月31日午前2時30分頃、宇都宮駐屯地での即応予備自衛官招集訓練期間中(課業時間外)、就寝中のベッドから落下した同僚隊員の異変を察知した即応予備自衛官10人は、直ちに心肺蘇生等の救命活動を実施し、報告を受けた時は嬉しかったと話した。

救命活動に当たった山口士長(即自)は「原隊(中央即応連隊)で実施した高強度ストレス衛生訓練の経験が生きた。皆の連携があって迅速な救命活動に繋がった。倒れた隊員が回復したとの連絡を受けた時は嬉しかったと話した。



重迫中隊の受賞者

齋藤2曹(即自)は、「仲間がいたから救急車の要請やAEDの手配等がスムーズにできた。一致団結して無事救助できたことを大変誇りに思う」と当時を振り返った。

朝霞駐屯地 納涼大会
1万3千人で賑わう

朝霞駐屯地は7月15日、駐屯地を一般開放し、地域住民との交流及び協力団体等の理解と信頼を深化させるとともに隊員の士気の高揚を図ることを目的として、駐屯地納涼大会を開催した。

当日は晴天に恵まれ、子供広場が人気を博し、大きな賑わいを見せた。



フィナーレを飾った打ち上げ花火



ゴンゾー氏によるパフォーマンス

イクしたタンバリンマス・ター・ゴンゾー氏によるパフォーマンス。納涼大会のフィナーレを飾ったのは打ち上げ花火であり、協力団体の協賛により例年の2倍の花火が夜空を彩った。最後は、しだれ柳の連打が会場を最高潮に盛り上げ、来場者及び隊員を魅了し幕を閉じた。

方面總監部幕僚長
同 幕僚副長(防衛)

着任

總監部は8月3日、朝霞駐屯地において転入者紹介行事を行った。このたびの異動で陸上幕僚監部監察官から満井英昭陸将補が總監部幕僚長(防衛)として着任した。また7月31日には朝霞駐屯地において見送り行事を行った。



東部方面總監部幕僚長
陸将補 満井 英昭

東部方面總監部幕僚副長(防衛)
陸将補 伊藤 優一郎

生年月日 昭和47年11月12日生
出身地 大分県
学 歴 防衛大学校(第39期)

主要経歴
西部方面總監部防衛部防衛課長
第14施設群長
陸幕運用支援・訓練部訓練課長
北部方面總監部幕僚副長
第5施設団長
陸上幕僚監部監察官

(健軍) (上富良野) (市ヶ谷) (札幌) (武山) (市ヶ谷)

生年月日 昭和47年4月14日生
出身地 広島県
学 歴 防衛大学校(第40期)

主要経歴
第37普通科連隊長
陸幕監理部総務課庶務室長
第1師団副師団長
教育訓練研究本部研究部長
自衛隊沖縄地方協力本部長
統幕防衛計画部副部長

(信太山) (市ヶ谷) (練馬) (目黒) (沖縄) (市ヶ谷)

坂田前幕僚長
補給本部副本部長へ



坂田前幕僚長

濱田前幕僚副長
第1空挺団長へ



濱田前幕僚副長



第1普通科連隊



第32普通科連隊



第34普通科連隊



第1後方支援連隊



第1高射特科大隊



第1偵察戦闘大隊



第1施設大隊



第1通信大隊

師団は7月2日から4日にかけて、師団各隷下部隊が担任する新隊員後期教育（特技課程）開始式を執行した。約3か月の共通教育を修了した新隊員は、各職種部隊の教育隊における区隊旗授与や各部隊長の訓話を通じて、自衛官としての責任の重さを改めて自覚するとともに、教育に臨む強い覚悟を持ってそれぞれの部隊で新たな一歩を踏み出した。

新隊員後期教育を開始 自衛官として新たな一歩

今後は各部隊で職種に応じた専門的な教育を受け、陸士としての資質を養うとともに、普通科、機甲科、高射特科、施設科、通信科及び需品科の各職種における基本的な特技を修得することとなる。今後それぞれの教育担任部隊は新隊員が将来各職種のプロフェッショナルとして大いに活躍するのを期待しつつ「陸上自衛隊の未来を担う世代の育成」という任務の重要性を改めて再認識し、使命感を持って教育にあたっていく。

自衛官候補生 修了式 成長を胸に新たな任地へ

第1普通科連隊、第32普通科連隊及び第34普通科連隊は、令和8年度自衛官候補生課程修了式を実施した。約3か月にわたる教育を修了した自衛官候補生は、自衛官として本教練、戦闘訓練及び体力



区隊旗の返還（34普連）



家族と記念撮影（32普連）



本課程を修了した隊員は、陸上自衛隊の未来を担う貴重な戦力として、それぞれの任地に配置され、各職種の専門教育を通じて、更なる知識・技能の向上を図ることとなる。各隊員は家族との記念撮影等を通じ、修了の喜びを分かち合う一方、苦楽を共にした同期との別れを惜しみつつ、自衛官として国民からの負託に応える決意を胸にそれぞれの任地へ旅立った。

師団は6月22日から26日の間、練馬駐屯地において令和8年度第1回師団先任上級曹長集合訓練を実施した。

本訓練は先任上級曹長として必要な資質・識能の向上等を目的に実施されたものであり、師団隷下の先任上級曹長が一同に会し、問題解決法やパネルディスカッション等

先任上級曹長集合訓練を実施 自覚と覚悟を胸に更なる成長へ



問題解決技法実習



パネルディスカッション



師団長、師団最先任上級曹長と訓練を修了した14人の先任上級曹長

対する動機付けの付与及び業務遂行イメージの具体化を図ることができた。本訓練を通じて先任上級曹長としての自覚と覚悟を深めるとともに、指揮官の意図を踏まえ、自ら果たすべき役割を主体的に考へて行動し、精強師団の育成に、より一層貢献していく決意を新たに



消防庁と現地調整



レッカー車で傷病者を吊り上げ救助



倒壊家屋における救助活動

東京都・江戸川区合同総合防災訓練 地域とともに災害に備える

消防庁等の防災関係機関との現地調整において、活動区域、役割分担などを綿密に調整・確認した。また各機関の特性を生かした協力体制の重要性を再認識することとなった。今後師団は各関係機関との連携を一層強化し、地域住民の生命・財産を守るため、災害対応能力の向上を図っていく。

師団は7月5日に実施された令和8年度東京都・江戸川区総合防災訓練に参加した。本訓練は行政及び各防災機関の実践的な訓練による災害対応能力の向上等を目的に

江戸川区平井運動公園等を会場として実施されたものである。このうち平井運動公園で実施された訓練に参加した第1普通科連隊を基幹とする部隊は当初、警視庁及び東京

第12旅団

精度と連携を高めよ

関山演習場にて機動戦闘車射撃訓練

第12偵察戦闘大隊は7月15日から17日までの間、関山演習場において令和8年度第2回機動戦闘車射撃訓練を実施した。

本訓練では16式機動戦闘車（MCV）の搭載火

器である105mm砲の射撃訓練を行い、乗員同士の協同連携及び射撃精度の向上を図り、練度を評価・判定して今後の練成の資とした。

訓練場所となった関山演習場内の第2機動戦闘

射撃は、これまで実施されてきた定期演習場整備を経て、MCV等の戦闘車両の行動に耐えうる強い、零点修正と停止射撃を経て、本射撃訓練の最

大の要素である躍進射撃と行進射撃に臨んだ。またMCV用掩体を利用した行進射撃や単車戦闘射撃を実施した。射撃部隊としてMCVに乗り込んだ隊員は各自の任務を真摯に全うして強固な協同連携を発揮し、見事に標的に命中させ、それぞれの評価を得た。

大隊は今後も機動戦闘車での射撃の技を磨き躍進する。



行進射撃を実施する第12偵察戦闘大隊のMCV



弾薬補給



訓練練度判定を受ける自候生（13普連）



成績優秀者への表彰（2普連）



重材料運搬の演練（12施設）



機動戦闘車の説明（12偵戦大）

職種特技の取得にまい進

プロフェッショナルへの道

▽自衛官候補生教育修了第2、第13、第30普通科連隊及び第12偵察戦闘大隊を担任部隊として実施していた自衛官候補生教育は、厳しい状況でも損なわれない責任感と精神力を養い、自衛官の基本となる候補生教育を6月末に修了した。

しみつ、122人はそれぞれ職種配属のため、次の舞台となる特技教育へと進んでいった。

▽特技教育・後期教育旅団は7月初旬から、各普通科連隊と第12偵察戦闘大隊、第12施設隊、第12化学防護隊を担任部隊として、職種訓練となった自衛官候補生特技教育及び新隊員後期教育を開始し、現在は総勢152人がそれぞれの特技教育を受けている。職種という新たな絆と職能を育みながら日々成長する新隊員の今後から目が離せない。

機動戦闘車（MCV）を用いた教育が開始され、初めて自身で操作することになる大きな装備品の存在に気持ちを新たにしていた。

■施設隊では開始早々に施設基礎作業の項目が始まり、連携が必要な重材料運搬やシャベルを使う土木作業など次世代の「エンジニア」を担う訓練を展開している。

■化学防護隊は化学防護器材の貸与式を行った。新隊員は対特殊武器戦において、国民と部隊の安全を守り旅団の戦力維持の要としての化学科隊員の自覚を新たにしたい。

サマキャン始動！

旅団は7月1日から開始された東部方面隊のサマキャン期間において、市街地広報を含めた募集活動を実施中である。



学生に資料を配布する小倉副旅団長（高崎駅）



資料を配布する持田前幕僚長（前橋駅）

初日となる1日には群馬地本と協同して、朝の通勤・通学時間帯のJR高崎駅、前橋駅前などに、ポケットティッシュなどの募集広報グッズを配布した。

配布には小倉副旅団長以下、在相馬原部隊の隊員11人が分散して参加した。高崎駅と前橋駅では小倉副旅団長と持田前幕僚長が学生を中心に自らパンフレットを配布し、募集広報

の手ごたえを感じていた。群馬地本のキャラクター「ター」だるまんも登場し、通学途中の学生らが一緒に記念写真を撮るなど和やかな場面も見られた。

旅団は今後も各地本と連携し、自衛隊の業務について訓練をはじめとした活動を発信するとともに、実際の職場・営内生活の見学などを支援・実施し、職業としての自衛隊が幅広い認知につながるよう募集広報作戦を展開していく。

音色も鮮やかに各地で演奏会

第12音楽隊は6月、新潟県内3か所（胎内市、五泉市、新潟市）において演奏会を行い、約2000人の市民に憩いの時間を提供した。13日及び14日に実施された胎内市での『胎内音楽フェスティバル』は地元高校生有志が企画して開催されたもので、学生は「緊張しながらも和やかな雰囲気の中で演奏を受けられ上達した気がする」と話した。

14日に開かれた演奏会では魚沼市出身のアーティストと共演し、沸き起こった大合唱により会場が一体となった。



学生に演奏指導する音楽隊隊員（胎内市）



指揮者体験を楽しむ子供（新潟市）

第1施設団

上田総監初度視察

古河駐屯地の作戦基盤を確認

施設団及び古河駐屯地 駐屯地において東部方面業務隊は6月24日、古河 総監の初度視察を受けた。



総監は駐屯地体育館前

巡閲

総監は駐屯地体育館前において、儀礼よう隊の栄誉礼を受けた後、駐屯地会議室において団長及び業務隊長からの状況報告を受けるとともに、勤務庁舎、管理施設、営内者の居室などを視察し、駐屯地隊員の生活・勤務環境等の現況を確認した。駐屯地営庭での訓示では、第1施設団については「方面隊施設力の骨幹部隊」であると述べ、「戦いの様相は日々進化する。我が国の施設運用やレジリエンスの在り方も日々進化を求められている。その中で首都防衛検閲や海空自衛隊との連携訓練など、自ら考え積極的に取り組んでおり、この取り組みをさらに進め、方面隊施設力の骨幹としての役割を引き続き果たしてもらいたい」と期待を寄せた。

また古河駐屯地業務隊に対しては、「各種事態対処時の活動基盤の支援や兵站基盤として極めて重要な任務を担っている」と評価し、「この

総監訓示

総監は駐屯地体育館前において、儀礼よう隊の栄誉礼を受けた後、駐屯地会議室において団長及び業務隊長からの状況報告を受けるとともに、勤務庁舎、管理施設、営内者の居室などを視察し、駐屯地隊員の生活・勤務環境等の現況を確認した。駐屯地営庭での訓示では、第1施設団については「方面隊施設力の骨幹部隊」であると述べ、「戦いの様相は日々進化する。我が国の施設運用やレジリエンスの在り方も日々進化を求められている。その中で首都防衛検閲や海空自衛隊との連携訓練など、自ら考え積極的に取り組んでおり、この取り組みをさらに進め、方面隊施設力の骨幹としての役割を引き続き果たしてもらいたい」と期待を寄せた。

新隊員教育を開始

担任官「情熱と絆」を要望

施設団は7月3日、古河駐屯地において、一般隊員補給課程及び新隊員教育第101施設団本教育は第101施設団が実施した。



若さ溢れる新隊員



教育隊旗の授与

開始式では担任官である第101施設団器材隊長が訓示を述べた後、教育隊旗を授与した。訓示では、新隊員に対する激励の言葉を述べるとともに、担任官として2点要望した。

要望事項の1つ目は「情熱を持って学べ」であり、受け身の姿勢では真の技術は身につかない。失敗を恐れず日々の教育に情熱をもって臨んでもらいたい」と述べた。

要望事項の2つ目は「同期の絆を大切にせよ」であり、「共に厳しい訓練を乗り越える仲間との絆は、一生の財産となる。互いに支え合い、一人も脱落することなく、生涯の宝となる確かな絆を、ここで築き上げてもらいたい」と述べた。

新隊員は「緊張しますが、早く慣れて頑張りたい」「同期と助け合いながら、立派な自衛官になれるよう頑張ります」等の意気込みを話し、頼もしさを見せた。

施設団は担任官を核とし、彼らの成長を支え、見守りながら、自衛官としての識能と絆を育んでいく。

中堅陸曹集合教育を実施

幹部自衛官への理解深める

施設団は7月7日・8日の両日、古河駐屯地において中堅陸曹集合教育を実施した。



積極的に質問する参加者

本教育は中堅陸曹等に対し、幹部自衛官の制度や処遇の教育、団所属部内幹部の任官経緯及び補職歴等を紹介し、幹部自衛官への理解を深めるとともに、任官に対する不安を解消し、任官意欲の向上を図ることを目的として行われた。制度及び処遇等に関する教育は団第1科長が担当し、部内幹部が受ける教育が積極的な質問に参加者

の概要や、補職の紹介、収入面の比較などについて説明した。また実際に活躍する部内幹部や3佐以上の勤務状況についても紹介し、幹部自衛官としての将来像を具体的に示した。

さらに団隷下部隊を含む、多くの部内幹部が自らの任官理由や経験談、補職歴等について紹介し、参加者からの質問にも丁寧に応じた。実体験に基づく話は参加者の関心を集め、任官への理解を一層深める機会となった。

施設団は本教育を通じて、幹部自衛官への理解促進と任官意欲の向上を図るとともに、今後多くの部内幹部自衛官を輩出し、強靱な施設団の創造に繋げていく。



先月は08 J X Rでも日米共同訓練の場面がありました。そして今月は熊本地震が発生し、東部方面隊からも多くの隊員が災害派遣にあっています。

災害派遣では、国内外を問わず多くの機関が協力して活動することがあります。そんな時に大切なのは、難しい英語ではなく、短く・正確に伝えることです。

今回は災害派遣や人道支援の現場で使えるシンプルな英会話を紹介します。

“We are conducting disaster relief operations.”
(私たちは災害派遣活動を実施しています。)

conductは米軍では「実施する」という定番表現です。
conduct disaster relief operationsは米軍

でもよく使われます。

“What's your current situation?”

(現在の状況を教えてください。)

現場で相手の状況を確認する基本フレーズです。
【例】
JGSDF: What's your current situation?
U.S.: The road are blocked, but evrey one is safe.
(道路は寸断されていますが、全員無事です。)

“We need additional supplies.”

(追加の支援物資が必要です。)

suppliesは食料・水・毛布・燃料などの支援物資全般を表します。

“Is anyone injured?”

(負傷者はいますか。)

被害状況を確認する際によく使う一言です。
※injuredは「負傷した」、casualtyは軍事では「死傷者」という意味になるため、初心者にはinjuredを覚えておくと便利です。

“Stay safe.”

(安全第一で行動してください。)

活動前や別れ際によく使われる短い励ましの言葉です。

自衛隊でも米軍でもよく耳にする表現です。
【例】
JGSDF: We're moving to next area.
(次の地域に向かいます。)
U.S.: Stay Safe.
(気を付けて。)
JGSDF: Thank you, you too.
(ありがとう、あなたも。)

災害派遣では、言葉の壁を越えて協力する場面があります。英語が完璧である必要はありません。短く、分かりやすく、落ち着いた伝えることが、円滑な連携につながります。

“Many hands make light work.”

(多くの人が協力すれば、仕事は楽になる。)

災害対応では、一人ひとりの力を合わせることで、大きな力になります。日頃から英語にも親しみ、いざという時の連携に役立てていきましょう。

社会と国を支える 目指せ予備自衛官



基本教練を行う予備自補



敬礼を行う予備自補



一糸乱れぬ整列



熱心にメモを取る隊員

第117教育大隊は予備自衛官補の招集教育訓練を開始した。普段は一般社会人としてそれぞれの生活を営みながらも、大規模な災害や有事などの非常時に、防衛招集命令などを受けて自衛官となり、後方支援、基地警備などにおいて現役自衛官とともに任務に就く予備自衛官は、予備の防衛力として不可欠な存在である。今回は予備自衛官補(一般)のみであったが、18歳以上52歳未満の幅広い年齢層からなる各教育参加者は大学生・会社員・主婦・自営業等普段様々な職業に従事しながらも「誰かの役に立ちたい」「いざという時に何か助けになる知識と能力を身に着けたい」と参加の理由はそれぞれだ。教育は一部eラーニングを含むAからJの10個タイプを各5日、計50日を3年以内に行い、教育修了後は予備自衛官として任命され、災害招集等に就いて任務を遂行することができるようになる。



神津島における広報「VR体験」



入浴セットの展示(駿河総合高校)



混成団長賞を受賞する新隊員



整然とした敬礼を行う新隊員

新隊員はこれまで共に過ごした仲間との別れに涙を流しながらも、今後の自衛官としての道のりを歩み続ける強い思いを胸にし、互いの健闘を送りあっていた。頼もしく立派に成長した新隊員は今後の自衛隊を担う若き芽としてさらなる成長を続けて、大樹となって活躍するだろう。



戦闘指導を受ける軽火器の新隊員



120mm迫撃砲の操砲訓練を行う新隊員



「ようこう」艦艇広報(横須賀)



統裁施設研修(朝霞駐屯地)

東部方面混成団

成長した証と涙の別れ 新隊員教育修了

女性自衛官教育隊及び第117教育大隊はそれぞれの駐屯地において、自衛官候補生課程・一般陸曹候補生課程の約3か月にわたる新隊員に対する教育を終え、家族の見守る中、修了式を挙行した。

「前期教育」とも呼ばれるこの期間の教育は陸上自衛官に共通する基礎的知識及び技能を修得するものとして、勤務や精神教育の座学のほか各個の敬礼や分隊教練等の基本教練、武器の分解結合や装備品の取り扱い等の実技を始め、戦闘訓練・射撃・偽装・体力訓練などの基礎的な知識を習得するとともに教育の集大成として行進、宿営、戦闘訓練を一連の行動として行う総合訓練を経て、すべての教育を6月末に終えそれぞれの駐屯地において修了式が行われた。約3か月という短期間にもかかわらず、顔つきや身体つきから成長した姿が伺え、修了式に参加した家族からは「息子

が一回り大きくなっていて驚いた。成長した姿に頼もしさを感じる」「娘の表情に自信を感じて親として誇らしく思えた」との声が聞かれた。

教育は次のステージへ 後期教育がスタート

第31普通科連隊は新隊員特設課程及び一般陸曹候補生課程後期を開始した。通称「後期教育」とも呼ばれる本教育課程は、入隊後約3か月にわたる「前期教育」を終えた新隊員の中から新たに31普通科連隊に配属された隊員が、普通科隊員として「軽火器」および「迫撃

砲」の特長ごとに分かれ専門的な知識と技能を修得する。軽火器は主に小銃と技能及び、分隊での戦闘行動や軽機関銃・個人携帯対戦車弾などの取り扱いを学び、普通科隊員として必要な基礎的な知識と戦術等を修得する。迫撃砲は81mm迫撃砲及び120mm迫撃砲の2種類の砲に分かれて教育を行う。81mm迫撃砲は通常、各普通科中隊の迫撃砲小隊に装備され、同中隊の火力支援を担う。120mm迫撃砲は普通科部隊最大の火力として重迫撃砲中隊に装備され、連隊の作戦における火力支援をおこなう。

後期教育は約3か月続くが、酷暑にも負けずこのたくまげに教育に臨み、将来の連隊を担う若い力としてこれからも訓練を重ねていく。

総監部人事部募集課 募集ニュース

08JXR募集広報

21日、海上自衛隊横須賀基地において、神津島へ派遣される海上輸送群「ようこう」に自衛隊や関係省庁の車両が積載される場面や艦内研修等を募集対象者26人が研修した。7月23日には、神津島に到着した「ようこう」での艦内研修や岸壁での装備品展示に合わせ、東京地本がVR体験や試着体験等の広報を実施したところ、神津島在住の約360人が訪れ、来訪者からは「毎年開催してほしい」「楽しかった」「格好良い」などの

意見が多く寄せられた。また第34普通科連隊と第1後方支援連隊が静岡県立駿河総合高校において災害発生時を想定した部隊展開訓練を実施するとともに、車両や入浴セットの装備品展示、静岡地本による防災講話を実施し、夏休み中であるにも関わらず、学校側との連携により在校生約140人が参加して、自衛隊の活動への理解促進及び防災意識の高揚を図ることができた。

今回の広報を通じ、参加者に自衛隊の幅広い活動を知るとともに、自衛隊の認知度を高め職業としての魅力を発信することができた。

震駐屯地の総監部指揮所・統裁施設の研修を実施した。この研修では合わせて募集対象者52人が参加し、自衛隊の災害派遣における情報収集要領、自治体と連携した災害対処要領を研修した。参加者は熱心に話を聞いて積極的にメモを取る等、自衛隊に対する関心の高さが伺えた。

特科連隊

フィリピン共和国大統領来日
国賓を礼砲で迎える

東部方面特科連隊は5月26日、東京国際空港羽田（田空港）において、フィリピン共和国大統領来日を実施した。



第1大隊第3中隊による礼砲

礼砲とは、国賓などの来日に際し、105mmの榴弾砲4門を用いて空砲射撃を行うことにより、敬意を表すという国際的な儀礼であり、東部方面特科連隊は、この礼砲任務を陸上自衛隊で唯一担任している。近年では、平成29年スペイン国王、平成30年ベトナム国家主席、令和7年ブラジル連邦共和国大統領の来日時及び、令和元年の「即位礼正殿の儀」においても礼砲を実施している。今回編成された礼砲隊は、第1大隊第3中隊長

を礼砲隊長として、計画的かつ段階的に練成を積み上げ、万全の態勢を整え任務に臨んだ。

当日も、緊張感が漂う中、空港内の礼砲射撃位置に火砲を速やかに展開し、フィリピン大統領が昇降機階段を降り切り地上に第一歩を踏み出した瞬間、各機関の連携により礼砲隊長指揮のもと、寸分違わぬ正確なタイミングで初弾を発射して、合計21発の礼砲を行い任務を完了した。

礼砲隊長を務めた第3中隊長の鈴木3佐は「任務完遂に向け計画的に訓練を積み重ねるとともに、準備・調整段階から外務省、国土交通省、陸幕関係者や空港職員等と連携して、羽田空港までの機動から空港内での射撃準備に至るまで整齊と準備を完了することができた。日没が迫る中の特別機着陸であり、張り詰めた緊張感の中、無事任務を完遂することができた。陸上自衛隊唯一の礼砲部隊における栄誉ある礼砲隊長を務められたことは、一生の思い出です。連隊長、大隊長をはじめ、ご指導・ご協力いただいた方々、整齊と射撃任務を遂行してくれた中隊隊員に感謝するとともに、引き続きあらゆる事態に即応し、任務を完遂できるよう中隊の更なる精進化にまい進します」と所感を述べた。

連隊は引き続き、陸上自衛隊唯一の礼砲実施部隊として、誇りをもって礼砲任務を遂行していく。

航空隊

防衛・駐屯地モニター立川駐屯地研修
地域との懸け橋に

東部方面航空隊は6月19日、防衛・駐屯地モニター立川駐屯地研修を支援した。4月の委嘱行事に続く2回目の研修となり、部隊の業務への理解と隊員の生活環境の把握を目的として、より部隊・隊員を身近に感じられる



航空機整備の専門性について理解を深める参加者



栄養士から食事内容や提供体制の説明を受ける参加者

内容で実施した。研修コースは、居住区舎、医務室、浴場、厚生センター、食堂での体験喫食、モニター会議、管制気象（気象班・管制塔・レーダー管制室）、航空機整備、駐屯地外周ツアー

と多岐にわたる。各施設で担当隊員が業務内容や設備について丁寧に説明を行った。さらに、駐屯地司令がモニターと会食し、意見交換を通じて交流を深める場面も見られた。モニター会議では、令和8年度版自衛官の処遇改善、一枚で分かる陸上自衛隊「のパンフレット」を用いた解説を行い、隊員の勤務環境への理解を深める一助とした。

見学できるとさらに良かった。「一般人が知りたいたいのにはネットでは得られない生の声」であり、隊員の思いや経験を直接聞いたことが心に残った。といった意見もあった。特に、隊員が仕事を選んだ理由や、やりがい、苦労などを語る場面が印象的だったとの声が多く、今後は質疑応答の時間を設けてほしいという要望も寄せられた。

研修後のアンケートでは「隊員のリアルな生活を見られて良かった」「整備士の方から機体の構造や整備の工夫を伺い、仕事への誇りを知ることができた」「栄養士の話を通じて、自衛隊の食事提供の意義を理解できたなど、具体的な気づきが寄せられた。また「女性隊舎を

普段は見ることのできない業務の様子や隊員の生の声に触れることで、航空隊および駐屯地への理解を促すことができる貴重な機会となった。今後もモニターの協力を得ながら、地域住民との信頼関係の醸成に努めていく。

衛生隊

新隊員教育隊始動
医療の道へ踏み出す第一歩



行進訓練の練成をする新隊員



患者に接する新隊員

東部方面衛生隊での新隊員教育が始まり、早くも1か月が過ぎた。グラウンドに響く力強い掛け声と勇ましい新隊員の姿を見ていると、日々の厳しい訓練とその先にある「医療の最前線」へ向かう決意の深さを肌で感じる。

衛生科の任務は平時・有事を問わず、傷病者の命を守り抜くことである。現在、新隊員は医療に関する知識・技術の習得のみならず、体力練成まで多忙な日々を過ごしている。泥にまみれ、額に汗を浮かべながらも互いに励まし合い、同期と共に成長しようとする姿は実に頼もしい。

教育において重要なのは、単に知識を暗記するだけでなく、実践的な技術を修得し、緊急事態において冷静沈着な判断を下す精神力、他者への深い慈愛、そして、過酷な状況下でも諦めない責任感が必要であることを意識させることだ。衛生科隊員が持つ医療セットやAED、止血帯はただの道具ではない。瞬時に状況判断し、それらを適切に使用することが多くの命を繋ぎ止める希望の架け橋となる。彼らが今、必死に汗を流して学ぶ知識や技術は、将来、戦友の命を救うための絶対的

シ通群

システム通信科を担う隊員を育成
基本特技修得を目指す



式の様子



教育担任官（群長）による式辞

東部方面システム通信群は7月1日に新隊員特選生課程後期教育の学生109人を出迎え、7月3日から教育を開始した。

群は昨年度に引き続き、陸上総隊隷下のシステム通信団と東部方面システム通信群との教育一体化を図っており、6月8日から陸上総隊及び東部方面隊隷下の10個部隊31人の支援を受け、教育開始までの約1か月で、教授計画の作成、教育法に基づく教育要領の練成、数回にわたる教授予行を実施し、教育態勢を確立するとともに、ハラスメント防止の周知徹底を行い、教育に集中できる環境整備を万全にした。

教育開始にあたり、教育担任官（群長）は「基本特技を確実に習得せよ」「同期の絆を大切にせよ」の2点を要望し、システム通信科隊員として一歩を踏み出す新隊員に、分

からないのは当然。不安に思わず、豊富な経験を待つ区隊長・助教・助手を信頼し、分かるまで遠慮なく質問して積極的に学んで欲しいと激励した。

新隊員は約3か月間、システム通信科隊員として必要な基礎的知識を修得するため、同期と切磋琢磨し、心と体を磨き、知識と技能を身に付け、教育に臨んでいく。

群は昨今の厳しい募集環境の中で入隊してきた新隊員を、愛情と情熱をもって善導し、それぞれの部隊の後継者として、システム通信科の未来を担う隊員となれるよう育成していく。

静岡地本

未来を考える4機関との出会い
3会場で合同職業説明会を開催

自衛隊静岡地方協力本部は、7月11日と12日に静岡市消防局において、18日に沼津市民文化センターで、さらに19日に浜松合同庁舎において、4機関合同職業説明会をそれぞれ開催した。

本説明会は自衛隊・警察・消防・海上保安庁が合同で実施したもので、来場者は各機関のブースを巡りながら、それぞれの仕事内容や特色について説明を受け、自身の進路選択の参考としていた。

個別相談ブースでは、より具体的な仕事内容や採用制度について熱心に質問する姿が見られた。

女性専用スペースでは、各機関の女性職員が来場者を囲み、和やかな雰囲気の中で懇談を実施した。

した。自衛隊に興味を持つ学生や保護者からは、「スマートフォンを使える時間はありますか」「休暇は取得しやすいですか」といった質問が寄せられた。その質問に対し女性隊員が自身の経験を交えながら「教育期間中でも課後は使用できます」「忙しい時期を除けば休暇も取得しやすいです」など率直な声を伝えた。

静岡地本では今後もこうした機会を通じ、自衛隊の魅力を発信していく。

未来の後輩へ想いを届ける
高工校生徒が母校・地域でリクルーター活動



学校生活や教育内容を紹するリクルーターの臼田生徒

自衛隊群馬地方協力本部高崎地域事務所は6月19日及び20日の2日間、陸上自衛隊高等工科大学2年生の臼田生徒をリクルーターとして招き、広報活動を実施した。

19日は母校である藤岡市立東中学校を訪問し、中学3年時の担任教諭と懇談するとともに、学校生活の様子や現在の近況を報告する教員の成長した姿に、恩師も目を細めていた。

放課後には野球部を訪問し、後輩11人とキャッチ

ボールを交えながら学校生活や寮生活について紹介したほか、声を掛け合うことや仲間との協調性の大切さについて自身の経験を踏まえて伝えた。

20日は地域イベント「藤岡イノベーションフェア2026」に参加し、高等工科大学に興味を持つ生徒や保護者に対して学校生活や教育内容を紹介し、駐屯地の生活環境や自衛隊としての訓練などについても率直に説明を行った。

からは「実際に学生から学校での生活についての話が聞けて、不安が解消された」といった声も聞かれた。

今回の派遣は高等工科大学を身近に感じてもらおう貴重な機会となり、地域に根差した募集広報の効果を実感する取組となった。

高崎地域事務所では、今後もさまざまな機会を通じて、自衛隊への理解促進と募集広報活動に取り組んでいく。

訓練所感

東部方特科連隊
本部管理中隊
若宮 嘉洋 1等陸曹



私は5月26日から6月25日までの間、フィリピン共和国で実施されたJPMRC26（令和8年度米陸軍との実動訓練）において、旅団火力調整所の訓練陸曹として参加しました。

今回が初めての海外訓練参加となり、自身の価値観や視野が大きく広がったと感じています。

最も印象に残ったのは、現地の方々の仕事に対する考えです。私はこれまで仕事に「やりが

い」や「規律」を重視してききましたが、現地では「家族を支え、人生を豊かにするために働く」という考えを持つ方が多く、初対面の相手にも笑顔で接する姿勢が強く印象に残りました。また日本では組織の調和を大切にする文化がありますが、フィリピンでは個人の能力や成果を積極的に発信することも重要であると知り、自己主張の大切さについて改めて考える機会となりました。

最後に「自衛隊に定年あれど、国防に定年なし」という思いを胸に、これからも自らを磨き続けていきたいと思っています。

茨城地本

水戸駅で広がる自衛隊との出会い
体験型イベントで自衛隊の魅力を発信

自衛隊茨城地方協力本部は7月3日から7日までの5日間、JR水戸駅において「水戸サテライトブース2026」を開

サマキヤンの一環として実施され、陸上自衛隊の「陸海空MIXの日」「女性自衛官の日」「航空自衛隊の日」及び「海上自衛隊の日」と日替わりでテーマを設定して行った。期間中は陸上自衛隊航

空学校霞ヶ浦分校、施設教導隊、防衛大学校からリクルーターの支援を受け、5日間で約4000人が来場した。

陸上自衛隊の日には戦闘糧食の展示や鉄帽・防弾チョッキの試着を実施

した。

陸海空MIXの日にはVR体験が人気を集め、「ブルーインパルス」「第1空挺団の降下訓練」「護衛艦乗艦」など臨場感あふれる映像を楽しむ来場者で賑わった。

女性自衛官の日には、女性隊員や防衛大学校女子学生が中心となって交流を行い、女性ならではの

の視点から自衛隊の魅力を紹介した。

航空自衛隊の日にはF-4戦闘機のコクピット展示を実施した。

海上自衛隊の日には砕氷艦「しらせ」が持ち帰った南極の水の展示など、各自衛隊の特色を生かした企画が来場者の関心を集めた。

期間中、初日から最終

日まで連日とおして訪れる来場者も見られ、地域に開かれた広報イベントとして大きな盛り上がりを見せた。

茨城地本は今後も地域に密着した広報活動を通じて、多くの方々に自衛隊への理解を深めてもらえるよう一丸となって取り組んでいく。

神奈川地本

自衛隊体験ブースを出展
体験を通じて学ぶ防災の大切さ



ロープワークを教える広報官

自衛隊神奈川地方協力本部は6月13日、平塚市立真土小学校で開催された真土地区青少年指導員主催の子ども大会において、防災体験ブースを出展した。

当日は約60人の小学生が参加し、さまざまな体験を通じて、楽しみながら防災への理解を深めた。

自衛隊ブースでは、災害時にも活用できるロープワーク体験を中心に、災害派遣パネル展示、制

服試着体験、災害派遣車両の搭乗体験を実施した。ロープワークでは、隊員が実際の災害派遣で活用する基本的な結び方を紹介し「荷物を固定するとき」や「避難所で物を設置するとき」などを、身近な防災の場面を交えながら丁寧に指導した。

また児童一人ひとりが実際にロープを手に取り繰り返し結ぶことで、楽しみながら実践的な技術を身に付けられるよう工夫した。さらに「家族と

一緒に練習してみよう」と呼び掛けることで、防災について家庭でも考えるきっかけづくりにつながった。

このほか隊員が実際の任務で使用する背囊（はいし）の背負い体験も実施し、児童たちは装備の重さを体感しながら、災害現場で活動する隊員の任務の厳しさや責任の重さに理解を深めていた。

参加した児童からは、「自衛隊の大きな車に乗

ることができて楽しかった」「リュックが思っていたより重かった」「ロープの結び方を家でも練習してみたい」などの声が多く聞かれ、自衛隊や防災への関心を高める機会となった。

神奈川地本は今後も地域と連携した防災イベントや広報活動を通じて、自衛隊の役割や災害派遣活動への理解を深めるとともに、地域住民の防災意識の向上に寄与していく。

ある！ある！自衛隊

byとむえ



個別相談ブースで具体的な説明を行う広報官

最先任 上級曹長

「プラス思考」 東部方面特科連隊 羽田 和也 准陸尉



あつまをご覧の皆様、日々の訓練等お疲れさまです。東部方面特科連隊第1大隊最先任上級曹長の羽田准尉です。

砲とは日本国が公式に招待した外国の賓客が、我が国に到着して第一歩を踏み出したと同時に105mm榴弾砲による空包を5連射する国際儀礼の1つです。我々は崇高な礼砲任務部隊の伝統を継承して、自信と誇りを持って演練し、多様な任務完遂に努めています。

このように大隊において、最先任上級曹長として私が心掛けていることは「プラス思考」です。ここで、皆様にもプラス思考を実践していただきたいと思い、私が心掛けている事項を一部紹介させていただきます。

私達は日々の生活や訓練等で多くの困難や予期せぬ事態に直面します。プラス思考とは、起きた事実を冷静に受け止め「この経験から何を学べるだろうか」、「次に生かせる要素はないか」と前向きな可能性を見出す姿勢ともいえます。例えば、訓練

等で多くの困難や予期せぬ事態に直面します。プラス思考とは、起きた事実を冷静に受け止め「この経験から何を学べるだろうか」、「次に生かせる要素はないか」と前向きな可能性を見出す姿勢ともいえます。例えば、訓練

ることができ、周囲の隊員にも良い影響を与えます。前向きな言葉使いや明るい態度は、部隊の雰囲気や人間関係を良好にします。考え方や捉え方を要するだけで行動が大きく変わり、困難な状況下でも希望を見出し良い方向へ前進できると思います。

ネガティブな発言を控えて、プラス思考を実践してみてはいかがでしょうか。皆様の参考になれば幸いです。私自身も、引き続きプラス思考を実践し、大隊の更なる精進に邁進していく所存です。

東部方面通信群第105基地システム通信大隊第317基地通信中隊宇都宮派遣隊の勤務を最後に平成31年3月で任期満了し、同年7月、予備自衛官に採用されました。予備自衛官として本年まで3回の5日間招集訓練に参加しています。年

集訓練に参加しています。訓練を通じて、予備自衛官補から採用された方々の取り組み姿勢に目を引かれました。自ら考え、確認しながら着実に理解を深めていく様子を見て、自身の姿勢を見直す良い機会となりました。

現在、私は栃木県芳賀町に所在する株式会社オートテックニッパパン(以下「ATJ」という四輪・二輪・汎用製品の研究開発・品質保証をサポートするエンジニアリングサービス企業に勤務をしています。ATJは1982年創業以来、モビリティ業界において自動車メーカー様、サブライヤー様の商品開発支援などさまざまな業務を通じ、確固たる信頼関係

を築き上げてきました。ATJビジョンである「関わる人を笑顔にするエンジニアリングサービス企業」を掲げ、従業員一人一人の成長と技術力を発揮しながら、一歩先を見据えた価値の創造に努めています。劇的に進化する技術に対してATJの技術者を常にアップデートし、お客様満足の上を目指して社会に貢献していきたいと考えている会社です。

今後予備自衛官としての訓練に積極的に参加し、いざという時には自衛官として、国の防衛や災害派遣等において人々の役に立ちたいと考えています。これから任期満了退職を考えている方や定年退職される方にも、ぜひ予備自衛官への志願をご検討いただければと思います。

「やる気・元気・勇氣」 第12通信隊 石井 杏奈 3等陸曹



今月のフェアレディーは、相馬原駐屯地に所在する第12通信隊指揮所通信小隊構成班の新潟県新潟市出身石井3曹23歳です。

Q 自衛隊に入隊したきっかけは？
両親が自衛官であったため、幼い頃から憧れていました。これまで育ててもらった恩返ししたかったことが入隊の動機です。

Q 普段行っている業務とその業務の魅力は？
さまざまな通信線を用いて有線構築し、ネットワークを構築しています。仲間との協同連携が大事であり、班の結束力が強く絆が深い職場で自身の体力と実用指揮能力が向上できる点が魅力だと思っています。

Q これまでで最も思い出深い訓練は？
女性自衛官教育隊新隊員課程の班長として臨時勤務に行ったことです。初めて人に教える立場となり、一人一人異なる悩みや課題と向き合うことに難しさを感じていましたが共に勤務した方々に支えていただきながら無事に勤務を終えることができました。

Q 最後に一言
システム通信科は通信を繋げば終わりと言われるがちですが最初に展開し、最後に撤収していきま

「やりきるために」 第34普通科連隊第4中隊 飯村 純太 3等陸曹



今月の東方男児は第34普通科連隊第4中隊に所属する茨城県出身の飯村3曹です。

Q 自衛隊に入隊したきっかけは？
同級生から自衛隊の話聞いたことがきっかけで興味を抱き、入隊を決意しました。

Q 学生時代に行っていた部活動は？
中学生の時にソフトテニスに所属していました。今でも休日等を利用してソフトテニスに打ち込んでいます。

Q 趣味は？
クラブフットボールを飲むことです。同期が熱中していることに影響されて自分も好きになりました。

Q これまでで最も思い出深い訓練は？
約10年前に第5次派遣海賊対処行動に参加したことです。普段の訓練とは違い、実動かつ海外での活動とあって、今の自分を形作る上で非常に重要な要素になっており、そこで得た経験が現在の訓練や業務等で非常に生きています。

Q 普段行っている業務とその魅力は？
訓練の計画作成や若手の指導を行っており、そこで得た経験が現在の訓練や業務等で非常に生きています。

Q 自身に求めることは？
「できる限り合理的に」です。普段から感情に支配されることがなく、常に冷静に任務達成のために何ができるかを考え続けています。

Q 最後に一言
今後後輩隊員の指導、育成に尽力し、各種任務達成のために何ができるかを考え続け、第34普通科連隊第4中隊の隊員としてより一層部隊に貢献していきたいと思っています。

編集後記

生活の中で1/4を意識することはありますか？料理で食材を切る時、半分に切って、また半分。などはよくありますね。時計にしても12時間や60分の使い方を説明するときは1/4刻みでメモリを活用することが多いと思います。一方、戦術の世界では部隊の1/4の損耗は大打撃であり、任務達成に大きな影響を及ぼすことが知られています。大切な仲間一人も失いたくないものです。8月生まれの私はこの時期が来る、と、生んでくれた母に感謝するのはもちろんのこと、祖父母(4人)の一人でも欠けたら自分はこの世に存在するでなかつたのだと思いを馳せます。(もちろん先祖みんなに感謝していますが)長い歴史の中で人間一人がこの世に誕生し、今の世界を生きていることが奇跡ですよ。欠けてはいけない誰かの大切な人が1/4の犠牲にならないように平和を守る意味をもう一度考えながら厳しい任務も乗り越えていきたいものです。